巳年を迎えて

専務取締役　中野富雄

読者の皆さん

明けましておめでとう御座います。誌上から皆さんの御健勝と御発展を心からお祈りいたしますと共に，雪印種苗は「種子と飼料」を通じて，今年も皆さんの御手伝いをいたします。相変らぬ御引立と御指導をお願い申し上げます。

さて，今年は巳年—即ち蛇の年です。

蛇といえば，ゾッとするか，蛇を見れば卒倒する女性もいるほど，人から嫌われている動物です。

事実，蛇蠍（ダカツ）の如く嫌うとか，蛇のように執念深いとか，言葉の上でもいやな表現に用いられている程です。

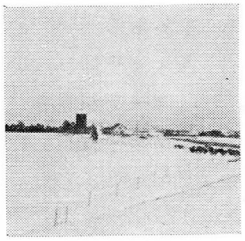
あのウネウネと草かげを滑る蛇身，如何にも攻撃的な鎌首，そして鋭い目と炎のような舌の動きは，余り好ましいものではありません。こんな憎まれる動物をお作りになった神様はホントに罪な方と言いたくもなります。

折角ですから，蛇のことを百科辞典で調べてみました。蛇は脊椎動物爬虫類蛇目に属し，体は円筒形で手足なく，脊中は細いウロコ，腹は大きいウロコで覆われ，腹のウロコを動かして行動する。胎生もあるが，大抵は卵生で，大きく広く開く口で小動物を丸呑みする。小はミミズ程のものから，大は長さ10米に達するものもあり，ニシキヘビはいわゆるウワバミで大蛇の代表でしょう。

蛇の仲間で人間に有害な動物を食べて役立つものもありますが，牙から毒を出す毒蛇は危険で益々人に嫌われます。毒蛇は世界に650種もあり，日本にもメクラヘビ，マムシ，ハブ，百歩蛇，雨傘蛇などの毒蛇があり，特に沖縄ではハブの被害が多く，マングースなど蛇を喰べる動物を放って駆除には苦労しています。

蛇に対する人間の憎悪は大昔からで，日本の神話でも，日本を初めて治めた天照大神の弟で乱暴者のスサノオノミコトが，出雲の国火の川で娘を喰べようとした八岐（ヤマタ）の大蛇（オロチ）に酒をのまして退治した話は，矢張り蛇を悪者としていますし，西洋で

● 目　次 ●


新春を迎えた牧場

□巳年を迎えて　中野富雄…… 1

□自給飼料の増産推進を　三浦梧楼…… 4

□自給飼料の効果的な生産と利用　兼子達夫……11

も旧約聖書の中で，神が地のチリから最初の男性アダムをつくり，そのあばら骨から最初の女性イブを作り，エデンの楽園に住まわせた処，蛇がイブをそそのかして禁断の木の実を喰べさせ，イブも又アダムにその木の実を喰べさせ，神の怒りにふれてエデンの園を追い出され，爾来人間は食べるため一生働かなければならなくなったと言う物語でも，蛇は陰湿な悪る者，人間の仇として扱われています。

しかし，悪い方ばかりでもなく，蛇は海の神としてあがめられたり，特に白蛇は縁起の良い印として神聖視する地方もあり，もっと直接的には，蛇の皮は細工物として利用され，蛇皮の財布は金が入ると花柳界でもてはやされ，沖縄楽器蛇皮線には蛇の皮を張っています。又，蛇の黒焼き，焼酒漬けは薬用特に精力剤として珍重されていることも周知のことです。

蛇が他の動物と変っているところは，大きくなるにつれて脱皮すること，獲物をねらう根気の良さ，そして大きな獲物を丸のみして長時間かけて胃袋で消化することでしょう。ジッとねらいをつけて機が熟すると一気にとびかかって獲物を仕止め，「蛇ににらまれた蛙」のようだとか，「蛇のように執念深い」とか言われています。

何れにせよ，蛇は気味のわるい動物ですが，今年は巳年，蛇に見習う年になりそうです。

ここ1～2年続いている国際的な不況と物価高，それに追い打ちをかける異状気象，そこから来る貿易の不均衡や通貨不安，食糧危機，そして失業者の増加，それは人心の荒廃ともなり，各国で政府首脳や政権の変化がおこり，新しい平和や豊かさの在り方が論議されていますが，お互いに自国を主張する国々の集まりですから，スッキリさせるような名案は仲々出て来ません。しかも，このままでは何時か，何等かの形での爆発が心配されます。

とすれば，各国も，一人一人も，蛇のように脱皮して，古い皮をぬぎすてるような発想の転かんが必要な気がしますし，今の長い混乱期から豊かな安定期へぬけ出すのには，蛇のようなねらいをつけた辛棒強い執念も必要と思われ，この変動に耐えうる心や物の蓄積もなければならぬような気がいたします。これは些かコジツケではありますが，今の世相を乗り切るため，巳年にあやかって考えて見た訳です。

昨年は昭和46年以来の冷害でした。事実，収穫皆無に近い農家もあった由でお気毒に思います。全国の冷害被害額は4,000億円を超えると言われ，過去にも幾度か冷害に災いされて来ている通り，天候に左右される農業の在り方を更めて考えさせられた次第で，筆者も若干の冷害地帯を見，人々の話を聞き，二つのことを再認識させられました。

一つは冷害をうけた処でも豊作作物があったということです。冷害を強くうけた北海道では，馬鈴薯，玉ねぎ，ビート，牧草は，一部の旱魃地帯を除いては，夫々史上稀に見る豊作であったということです。つまり，いわゆる耐冷性，耐寒性作物や品種は，今年の冷害に耐え，むしろ増産となった――これは昔から農業の大切なポイントの一つは適地適作であると言われていることを裏書きしたと言えましょう。技術や設備が発達した現在でも，適地適作更に適品種を栽培することが，異状気象に耐えて安定した農業生産を確保する大切な基本であることを思い知らされたことになります。新年の作付作物の選択は，先ずここから始めなければなりますまい。

第二は，今年の冷害被害に個人差が目立ったということです。これは旱害地帯でも同様の傾向があったようです。同じ地域の同じ品種でも，収穫期に入っても穂が立ったままの田圃があり，そこから程遠くない他の田圃では穂の垂れ下がった平年作に近い収穫があったり，春からの低温で心配していたデントコーンにも，さっぱり伸びない圃場と結構実のつくまで生長したコーンが見られ，大豆でも雪が降って立毛のまま収穫を放棄した畑も多かったが，概ね平年作の畑もありました。

旱魃地帯の牧草地で1回刈りがせいぜいの所もあり，2～3回刈の出来た所もあったのです。

個人差があったことは，栽培者の熱意や品種・

技術の差も勿論あったでしょうが，総じて言うならば土地の肥えている田畑は，冷害，旱害の被害が可成りおさえられたと言うことになりそうです。

農業は「天・地・人」の合作であると言います。「天」のことは如何ともしがたい訳ですが，「地」はまだまだ改善出来そうですし，いわんや「人」の力は心がけ次第で天地の不足を補うことが出来るものです。特に「地」は農作物の母体であり，地力なくしては，品種の選定も機械も，そして化学肥料も農業政策もすべてが無駄になってしまう——これが昨年の冷・旱害における個人差の重要な原因の一つになっているように思われたのです。

それでは「地力」とは何だろうか？

勿論，作物のために土地は軟かく，然も団粒構造になっており，空気・水の割合や土壌酸度，肥料要素の配分が適正であることが「地力」の要件で，その適否が地力のバロメーターになりますが，もう一つ大事なことは土壌中の有機物そしてそれに付随する有効な土壌微生物の存在と活動が「真の地力」を支えるものと言えましょう。

地力不足に速効的な化学肥料が多用されて，最近その弊害が顕著となり，「真の地力」を培養しようとする「土づくり運動」が今更らしく登場してきていますが，農業の永遠の安定的発展を期待するならば「土づくり運動」は常に行なわれなければなりませんし，それには有機物と土壌微生物を忘れたものでは片手落ちということになりましょう。

有機物が適正にあって，土壌中の空気・水の釣合いがよければ，自然と有効な土壌微生物も増えます。有機物としては家畜の糞尿，堆厩肥，緑肥は何れも自家生産のものであり，何れも土壌を軟らかくし，団粒化をうながし，土壌中微生物の力によって微量要素を含んだ多様な肥料成分の給源となり，作物の収量，味，環境に対する抵抗力を増加することは，古くから体験的にも実験的にも認められていることなのです。

有機物はソモソモ太陽エネルギーの変形であり，有機物を施すことは太陽エネルギーを地中にたくわえることにもなるわけです。地表では作物の葉が太陽エネルギーをうけて同化作用を行ない，地中では根が太陽エネルギーのたくわえを吸収する——この輪廻がうまく廻っている土地こそ「真の地力」を持っていると思うのです。

地力培養のやり易い農業は酪農です。糞尿は豊富にあり，栽培する牧草・飼料作物は緑肥的性格を持ち，有機物の給源が沢山あります。ところが草地酪農でも地力減退の声が聞かれ，飼料作物の減収，含有養分の不足そして起立不能，繁殖障害，更に又冷・旱被害などが話題にのぼっているのは，「真の地力」の培養に問題がないのでしょうか。

土づくりは農業の基本であり，穀物も野菜・果物も，そして家畜の飼料も，そこから生まれてきます。

巳年に当って，化学肥料一辺倒や地力を忘れた永年草地管理のような考えかたから「脱皮」して，堆厩肥・緑肥効果をねらう草地更新・輪作へ改めてとり組み，数年後には真の地力を獲得する蛇のような「執念」をもち，土地の中に太陽エネルギーを蛇のように「丸呑み」させる有機物の施用を今年こそおやりになることを御奨めいたします。

雪印種苗はそのために必要な種子，資材と技術を真剣に提供し，皆様の経営向上にお手伝いいたしますことを重ねて申し添えて新年の御挨拶といたします。